

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

令和4年

7月15日

「マスク依存を考える ―なかなか外せないマスクー」

校長 中村 雅一

夏休みも間近になりましたが、依然、子どもが巻き込まれる自然災害や事故、事件等が日々起きています。まずは、安全に夏休みを過ごしてほしいと思っています。

また、近年、児童虐待やネグレクト、ヤングケアラーの問題が多く報じられています。一方、学校では、いじめや教師による不適切な指導（「教室マルトリートメント」という言葉で表現されるようになってきました）などの問題が報じられています。こうした虐待やいじめ問題が起きると子どもたちは心理的にも身体的にも不安定な状態に追い込まれます。自分の能力への自信のなさや、家庭内や集団場面での激しいプレッシャーやストレス、著しく疎外された状況、学校での対人関係におけるコミュニケーションの苦手意識などがももて、家庭や学校が生活しにくい場所となります。そこでは、人との葛藤が始まって、徐々に次のような状態が表れてきます。

- 「荒れ」（いじめ、非行、反抗、暴力、ムカつき、パニック、万引きや性犯罪など）
- 「閉じこもり」（かん黙、不登校、一人遊び、あきらめ、孤立、無気力など）
- 「適応過剰」（指示待ち、優等生的な子、過敏、過覚醒など）

いずれも、ストレスフルな生活を送り、心のケアが必要な状態です。こうした時、学校は子どもの心のケアに取り組むためにも子どもの健康状態の把握が必要で、多くは「日常的な観察」を行っています。しかし、思春期の子どもたちは、いつもいつも分かりやすいSOSを出してくれる訳ではありません。先月の6月には、日常的にストレスフルな生活を送っている子どもたちがいないか、「生活アンケート」を行い、気になる子どもについては担当が一人一人面談を行いました。また、今週は保護者面談も行われました。学校は、子どもの心のケアに取り組むシステムを持つこと（関係機関との連携も含む）に加えて、各教員がそれに見合う十分な「ゆとり」と心身ともに健康な状態にあること、家庭との信頼に根差した関係性を構築していくことが何よりも大事だと考えています。この後もお子様のことで気にかかることなどがありましたら、引き続き学校にお問い合わせください。夏休み明けからも、学校が子どもたちにとって「安全基地」であるよう努めてまいります。

次に、コロナ禍のマスクについての問題です。

先日、市教委からの「学校における熱中症予防とマスク着脱について」のお知らせを配付いたしました。7月に入り東京をはじめコロナの感染者数が急増しています。「第7波の到来」とも言われる中で、30°Cを超える真夏日においては、熱中症対策が学校に課せられた喫緊の課題となっています。

しかし、コロナ対策の「マスク着用」と熱中症対策の「マスク取り外し」は、相反するだけに難題です。また、教室の換気においても、これまで常時窓を開けていましたが、真夏の教室の適切な室温維持とは両立できず（真冬も同様です）、「休み時間に限定しての換気」とならざるを得ません。さらに、マスクについては、激しい呼吸を伴う運動時以外は指導はするものの、外さない（せない）生徒が多いのが現状です。

世の大人もそうですが、マスクを外せない理由には、「そもそものコロナに対する不安から」や、「マスク着用の習慣化」など複数ありますが、「周囲の目」を意識して外せないという理由が多くあるようです。つまり、圧倒的にマスク着用率が高い中で自分だけマスクを外すのは精神的なプレッシャーが大きいという、「同調圧力」からの理由です。さらに昨年末、「顔パンツ」という言葉が話題になりましたが、人前でマスクを外すのは下着を脱ぐのと同じくらい恥ずかしい、という感覚があるからだ。これには、「ルッキズム（外見至上主義）」が背景にあると言われます。

ルッキズムとは、外見でその人の価値をはかり差別する考え方のことで、例えば「太っている人はやせている人より劣っている」とか、「二重（ふたえ）の人は一重（ひとえ）の人より価値がある」とかいう、見た目での偏見・差別です。そもそも生まれ持った顔の構造や体格、体質、肌の色など自分で選べるものではありません。生まれつき二重の人もいれば、どんなに同じ量の食事をとっていても全く太らない人もいれば、太りやすい体質の人もいます。自分の意志で選ぶことができないもので人の評価を決めつけることは、ありのままの自分で生きるという、人の権利をくつがえす行為となります。

もちろん、誰かの外見を見たときに「きれいだなあ」と思ったり、「自分の好みではないなあ」と思ったり、心の中でどんな感想を持っていてもそれは自由です。自然と湧きあがる気持ちを否定したり、押し殺す必要はないと思います。しかし、人の外見に対しての評価を言葉にして伝えることは、時に「言葉のナイフ」でその人を傷つけ、その人の一生を左右してしまう可能性があります。たとえそれが誉め言葉であっても、相手のコンプレックスに触れれば同様で、人間関係を作っていく上で言葉の使い方というのは意外と難しいものです。

加えて、雑誌や広告、特に SNS では、他者からの安易な見た目での評価であふれています。例えば、「かわいくないと価値がない」とか、「肌が白い。背が高い。小顔。髪がふさふさ。女らしい。男らしい。日本人らしい。——」などなど。つまり、「なりたい自分像」の情報であふれていて、そうなりたいと無意識に思い込むようになってしまったり、さらには、なりたい自分像ではないために自分の顔のパーツや身長、体重、さらには声が嫌いになってコンプレックス（劣等感）を持ってしまったりします。ルッキズムの怖い所は、見た目ですわれたり、差別され続けることで、例えば「自分はルックスが悪いから何をしてもダメだし、下に見られて当然」と、「自己肯定感」が下がってしまうことです。

このような背景があって、マスクをつけていることへの「安心感」だけでなく、外すことへの「恐怖心」が加わり、より一層、マスクへの依存傾向が強くなっているのだと思います。

そうだとすれば、どうしたら私たちは「マスク依存」を克服できるのでしょうか。

克服すべきは「ルッキズム（外見至上主義）」であることは明白です。問題は、単なる「見た目いじり」にとどまらず、病気や障がい、年齢、人種、性差など、人の見た目や外見にとらわれない学校や社会が作れるかにあるのだと思います。

では、なぜ「見た目いじり」がなくなるのでしょうか。漫画家のカレー沢薫さんは、

『それがウケた』という歴史があるからだ』と言います。つまり、『見た目いじりで笑う人がいる限り、見た目いじりはなくなる。自分では見た目いじりをしていなくても、テレビや YouTube のブサイクいじりに爆笑しているようでは同じことになってしまう。よって、見た目いじりをなくしたい時は「笑わない」ことから始めてほしい。』と。（「見た目が気になる一からだの悩みを解きほぐす 26 のヒント」より抜粋）

一方、フェミニズムの視点でこれからの社会を考える学生団体「imI（イムアイ）」のメンバー、内田真帆さんは、『コンプレックス』というものを認識したのは中学校一年生の頃だった』と言います。その彼女も中学生の頃、見た目を気にしすぎるあまり、マスクを体の一部かのように身につけていたのですが、『中学校の転校を機にマスクを外した』と言います。次も、その内田さんの言葉です。

『・・・マスクをはずすことで、少し自分自身を好きになれた気がします。加えて、「見た目」を通して、自分に向き合うこと、葛藤することは、辛くて痛いものです。けれども、その先には他者への優しさが待っているのではないのでしょうか。・・・自分のコンプレックスと向きあったり、葛藤したりする過程が一番大切なのではないのでしょうか。もしかしたら、ルッキズムや外見至上主義から逃れることはできないかもしれないし、どんな人も、一度は被害者になるかもしれない。だけど、だからこそ、その痛みを一人ひとりが向き合うことで、その「痛み」は「優しさ」に変わり、「外見にとらわれない社会」がその先に待っているのではないかと、私はそう確信しています。』（「パナソニック ソウゾウノート」より抜粋）

世界は想像以上に広く、多様なもので、例えば「美の基準」は国や文化、時代や社会状況によって変わるし、もちろん人によっても違います。どうか、子どもたちには、思春期ゆえに他者と自分を比べ、落ち込むことはあっても、自分自身と向き合うことを忘れないで、自分らしさという個性を磨いてほしいです。

もちろん、「他人の目は気にするな。自分らしく生きろ」ということは、「他人の目を気にしない＝他人の気持ちを考えなくてよい」と言う意味ではありません。他人の目を気にしてばかりいても仕方ないけれど、私たちは「他人と生きていく」しかないのだから、「他者の思いや気持ち」を考える「優しさ」が必要になるのだと思います。自分との折り合い、他者との折り合い、答えは簡単には出ませんが、一人一人が自分に、他者に向き合い葛藤し、気遣う、その積み重ねこそが大切なのではないのでしょうか。 (令和4年7月13日)

<追記>

新型コロナウイルスの感染が急速に拡大しています。報道によると、20歳未満の子どもや若者が全体の3割以上を占めているとのこと。この感染者急増の背景にはオミクロン株のうち、感染力がより強いとされる「BA.5」の広がりや、ワクチン接種から時間がたって免疫の効果が下がってきていることなどが専門家から指摘されています。

本校も今月、11日(月)から学級閉鎖(4学級)が相次ぎました。その後、週末に向かい校内では感染の拡大とはならずにはすんでいますが、さまざまな子どもたちの教育活動が制限され、それには大きな痛みを伴いました。また、不安や動揺から出た言葉ではありましたが、その「心ない言葉」で傷つく人もいました。特に、感染予防を声高に叫べば叫ぶほど、感染した人が悪いとか、注意不足であると「自己責任化」されやすくなり、ネガティブな感情から「偏見」や「差別」「いじめ」が起きます。本当はどんなに注意していても、かかるときはかかる訳ですが(もちろん、感染対策を無視した行動は厳に慎まなければいけません)、感染症予防の注意喚起がネガティブな感情で感染した人の存在自体の価値を下げるようなことにならないよう、感染症のメッセージを送らなければいけないと考えています。

今後も8月に向かって全国的に増えていくことが想定されています。医療のひっ迫を防ぐために、国や自治体が医療や検査、ワクチン接種の体制を整えていくことが急務です。また、このような状況下、国は先日、現時点ではまん延防止等重点措置のような「行動制限は必要ない」という認識を示しました。学校の教育活動も「学びを止めない」というのが国や横浜市の基本方針です。しかし、「感染者の人数が増えたら教育活動を制限する(学級閉鎖や部活動の停止等)」という対応は、現在まで変わることなく行われています。

コロナ禍も3年目の今、こうした教育の場での制限をいつまで、どこまで続けるのか、続けないのか、ということを経験全体で考える時期に来ているのではないのでしょうか。今後も基本的な感染対策の徹底を図ることは必要ですが、一年前の状況とは違うことや臨床試験の分析結果、諸外国の対応などを考え、子どもたちの教育活動を保障できる現実的な対応をすすめたいです。 (令和4年7月15日)

万騎が原中学校におけるICT活用の取組の紹介

1 欠席連絡自動受付

万騎が原中学校では、このたび欠席連絡自動受付「COCOO(ココウ)」の導入を検討しています。今までの電話連絡の他に、保護者用webサイトからも「欠席」「遅刻」「早退」を受付できるサービスとなっております。

2 横浜どこでもスタディ

～誰一人取り残さない学びの機会を～

横浜は「横浜どこでもスタディ」に取り組みます

横浜市では、コロナ不安やその他、様々な理由や事情で学校に登校できない児童生徒が、自宅等で授業に参加できるように、子ども自身が必要に応じて学ぶ方法を選べる取組を各学校で行います。万騎が原中学校では、以下の2つの取組を行っております。

取組1	クラスルームでオンライン授業配信 授業に参加できる教科では、授業中に配信する。※現在は教室で実施している教科で行っている。クラウドブックを使って質問や資料の受信ができる。
取組2	テキタスの活用 学習支援教材の無料提供 PCを活用し、各自の学習進度にあわせて学習する。

8・9月の予定をお知らせします

※予定ですので、感染の状況等により大幅に変更になる場合もあります。

日	曜	学校行事など	昼食	日	曜	学校行事など	昼食
8/29	月	朝会TV、教育相談	○	15	木	卒アル部活写真	○
30	火	教育相談	○	16	金		○
31	水	教育相談	○	17	土		
9/1	木	防災訓練（6校時）、専門委員会	○	18	日		
2	金		○	19	月	敬老の日	
3	土			20	火		○
4	日			21	水	評議会	○
5	月		○	22	木		○
6	火		○	23	金	秋分の日	
7	水	期末テスト	×	24	土		
8	木	期末テスト	×	25	日		
9	金	期末テスト	△	26	月	学校保健委員会15:15	○
10	土	9日の昼食は、部活動によります。 学校給食、いそどりの販売はありません。		27	火		○
11	日			28	水		○
12	月		○	29	木		○
13	火		○	30	金	①～③年英語検定	○
14	水	卒アル個人写真・部活写真	○	31	土		

○○○●○○○●○○○●○○○○○●○○○○○●○○○○○●○○○○○●○○○

8・9月の学校カウンセラー（小川みなみ）による相談（水曜日）は

8月17日・24日・31日、9月7日・14日・21日・28日です。

相談予約等は、本校職員または相談室直通電話【（水）のみ391-5891】まで。

○○○●○○○●○○○●○○○○○●○○○○○●○○○○○●○○○○○●○○○

10月の主な予定
 4日（火）3年保護者進路説明会
 7日（金）前期終業式、11日（火）後期始業式
 17日（月）～21日（金）授業参観週間
 20日（木）合唱コンクール
 21日（金）桐花祭
 25日（火）～28日（金）3年進路相談

学校からのお知らせ

◆閉庁日の連絡◆

今年度は8月12日（金）～16日（火）までの平日を学校閉庁日とさせていただきます。この期間は、電話は留守番メッセージによる対応となります。緊急の場合の連絡は、西部学校教育事務所（336-3743）へ平日の8時30分～17時15分の間にご連絡願います。生徒の新型コロナ陽性判明に関する連絡については、17日以降に万騎が原中学校にご連絡ください。

